

平成 29 年 3 月期 財務諸表の概要

平成 29 年 4 月 28 日

会 社 名 株式会社 大和ネクスト銀行
 代 表 者 代表取締役社長 中村 比呂志
 問合せ先責任者 財 務 部 長 堀ノ内 慎

URL <http://www.bank-daiwa.co.jp/>

TEL (03) 5555-6500

特定取引勘定設置の有無 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成 29 年 3 月期の業績(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は対前期増減率)

	経常収益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29 年 3 月期	62,821	△6.3	3,563	△ 62.8	2,418	△ 61.0
28 年 3 月期	67,032	6.1	9,588	△ 29.6	6,198	△ 39.8

	自己資本当期純利益率	業務粗利益		業務純益	
	%	百万円	%	百万円	%
29 年 3 月期	1.8	11,504	△ 33.9	4,241	△ 56.1
28 年 3 月期	4.4	17,393	△ 16.1	9,665	△ 29.5

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1 株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
29 年 3 月期	4,694,889	133,865	2.9	13,386,539 69
28 年 3 月期	4,374,981	131,191	3.0	13,119,121 89

(注)「自己資本比率」は、期末純資産の部合計を期末資産の部合計で除して算出しております。

	預金残高	貸出金残高	有価証券残高
	百万円	百万円	百万円
29 年 3 月期	3,193,685	558,947	1,729,661
28 年 3 月期	3,121,506	317,112	2,078,525

(注)「預金残高」には、譲渡性預金を含めております。

(3) キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期 末 残 高
	百万円	百万円	百万円	百万円
29 年 3 月期	55,800	380,118	-	2,323,076
28 年 3 月期	△ 326,621	439,637	-	1,887,157

※ 注記事項

(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- | | | |
|----------------------|---|---|
| ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : | 無 |
| ② ①以外の会計方針の変更 | : | 無 |
| ③ 会計上の見積りの変更 | : | 無 |
| ④ 修正再表示 | : | 無 |

(2) 発行済株式数(普通株式)

- | | | | | |
|------------|--------|---------|--------|---------|
| ① 期末発行済株式数 | 29年3月期 | 10,000株 | 28年3月期 | 10,000株 |
| ② 期末自己株式数 | 29年3月期 | -株 | 28年3月期 | -株 |
| ③ 期中平均株式数 | 29年3月期 | 10,000株 | 28年3月期 | 10,000株 |

財務諸表

(1) 貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	前事業年度 (平成 28 年 3 月 31 日現在)	当事業年度 (平成 29 年 3 月 31 日現在)
(資 産 の 部)		
現 金 預 け 金	1,887,479	2,323,372
預 け 金	1,887,479	2,323,372
有 価 証 券	2,078,525	1,729,661
国 債	855,954	656,626
地 方 債	-	13,086
社 債	159,283	200,891
株 式	-	6,980
そ の 他 の 証 券	1,063,287	852,076
貸 出 金	317,112	558,947
証 書 貸 付	316,912	558,768
当 座 貸 越	200	178
外 国 為 替	3,857	4,019
外 国 他 店 預 け	3,857	4,019
そ の 他 資 産	83,633	74,062
前 払 費 用	290	405
未 収 収 益	5,262	7,614
先 物 取 引 差 入 証 拠 金	-	1,919
金 融 派 生 商 品	12,837	37,268
金 融 商 品 等 差 入 担 保 金	29,390	12,793
そ の 他 の 資 産	35,853	14,061
有 形 固 定 資 産	3	9
そ の 他 の 有 形 固 定 資 産	3	9
無 形 固 定 資 産	4,376	4,821
ソ フ ト ウ ェ ア	4,376	4,821
貸 倒 引 当 金	△ 6	△ 5
資 産 の 部 合 計	4,374,981	4,694,889

(単位:百万円)

科 目	前事業年度 (平成 28 年 3 月 31 日現在)	当事業年度 (平成 29 年 3 月 31 日現在)
(負 債 の 部)		
預 金	3,121,506	3,143,685
当 座 預 金	8,196	8,666
普 通 預 金	1,271,977	1,527,655
定 期 預 金	1,597,105	1,352,692
そ の 他 の 預 金	244,227	254,670
讓 渡 性 預 金	-	50,000
売 現 先 勘 定	-	109,130
債 券 貸 借 取 引 受 入 担 保 金	755,246	820,585
借 用 金	300,212	365,700
借 入 金	300,212	365,700
外 国 為 替	-	223
未 払 外 国 為 替	-	223
そ の 他 負 債	63,556	67,097
未 払 法 人 税 等	3,912	211
未 払 費 用	5,689	5,669
先 物 取 引 差 金 勘 定	-	71
金 融 派 生 商 品	35,650	14,195
金 融 商 品 等 受 入 担 保 金	3,000	24,310
そ の 他 の 負 債	15,303	22,638
賞 与 引 当 金	142	148
役 員 賞 与 引 当 金	48	57
役 員 退 職 慰 労 引 当 金	44	42
繰 延 税 金 負 債	3,033	4,352
負 債 の 部 合 計	4,243,789	4,561,023

(単位:百万円)

科 目	前事業年度 (平成 28 年 3 月 31 日現在)	当事業年度 (平成 29 年 3 月 31 日現在)
(純 資 産 の 部)		
資 本 金	50,000	50,000
資 本 剰 余 金	50,000	50,000
資 本 準 備 金	50,000	50,000
利 益 剰 余 金	21,996	24,415
そ の 他 利 益 剰 余 金	21,996	24,415
繰 越 利 益 剰 余 金	21,996	24,415
株 主 資 本 合 計	121,996	124,415
その他有価証券評価差額金	41,762	8,835
繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	△ 32,568	614
評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計	9,194	9,450
純 資 産 の 部 合 計	131,191	133,865
負 債 及 び 純 資 産 の 部 合 計	4,374,981	4,694,889

(2) 損益計算書

(単位:百万円)

科 目	前事業年度 (平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 3 月 31 日)	当事業年度 (平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 29 年 3 月 31 日)
経 常 収 益	67,032	62,821
資 金 運 用 収 益	44,203	41,837
貸 出 金 利 息	2,652	7,105
有 価 証 券 利 息 配 当 金	39,767	33,025
債 券 貸 借 取 引 受 入 利 息	6	-
預 け 金 利 息	1,773	1,713
そ の 他 の 受 入 利 息	4	△7
役 務 取 引 等 収 益	33	39
受 入 為 替 手 数 料	30	36
そ の 他 の 役 務 収 益	2	2
そ の 他 業 務 収 益	22,788	20,762
国 債 等 債 券 売 却 益	22,788	20,762
そ の 他 経 常 収 益	6	182
貸 倒 引 当 金 戻 入 益	-	0
株 式 等 売 却 益	-	175
そ の 他 の 経 常 収 益	6	5
経 常 費 用	57,443	59,257
資 金 調 達 費 用	27,202	30,491
預 金 利 息	5,882	4,325
譲 渡 性 預 金 利 息	84	6
売 現 先 利 息	-	469
債 券 貸 借 取 引 支 払 利 息	1,659	3,453
借 用 金 利 息	149	115
金 利 スワ ッ プ 支 払 利 息	19,418	22,123
そ の 他 の 支 払 利 息	8	△1
役 務 取 引 等 費 用	2,787	2,580
支 払 為 替 手 数 料	178	241
そ の 他 の 役 務 費 用	2,608	2,338
そ の 他 業 務 費 用	19,641	18,062
外 国 為 替 売 買 損	3,951	4,186
国 債 等 債 券 売 却 損	15,509	12,122
金 融 派 生 商 品 費 用	180	1,754

(単位:百万円)

科 目	前事業年度 (平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 3 月 31 日)	当事業年度 (平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 29 年 3 月 31 日)
営 業 経 費	7,804	7,352
そ の 他 経 常 費 用	7	769
貸 倒 引 当 金 繰 入 額	4	-
そ の 他 の 経 常 費 用	3	769
経 常 利 益	9,588	3,563
特 別 損 失	339	-
減 損 損 失	339	-
税 引 前 当 期 純 利 益	9,249	3,563
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	17,395	△40
法 人 税 等 調 整 額	△14,345	1,186
法 人 税 等 合 計	3,050	1,145
当 期 純 利 益	6,198	2,418

(3) 株主資本等変動計算書

前事業年度(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本					株主資本 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		
		資本準備金	資本剰余金 合計	その他 利益剰余金 繰越 利益剰余金	利益剰余金 合計	
当期首残高	50,000	50,000	50,000	15,798	15,798	115,798
当期変動額						
当期純利益				6,198	6,198	6,198
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						
当期変動額合計	-	-	-	6,198	6,198	6,198
当期末残高	50,000	50,000	50,000	21,996	21,996	121,996

	評価・換算差額等			純資産 合計
	その他有価証 券評価差額金	繰延ヘッジ 損益	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	58,551	△ 26,692	31,859	147,657
当期変動額				
当期純利益				6,198
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	△ 16,788	△ 5,876	△ 22,664	△ 22,664
当期変動額合計	△ 16,788	△ 5,876	△ 22,664	△ 16,466
当期末残高	41,762	△ 32,568	9,194	131,191

当事業年度(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本					株主資本 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		
		資本準備金	資本剰余金 合計	その他 利益剰余金 繰越 利益剰余金	利益剰余金 合計	
当期首残高	50,000	50,000	50,000	21,996	21,996	121,996
当期変動額						
当期純利益				2,418	2,418	2,418
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						
当期変動額合計	-	-	-	2,418	2,418	2,418
当期末残高	50,000	50,000	50,000	24,415	24,415	124,415

	評価・換算差額等			純資産 合計
	その他有価証 券評価差額金	繰延ヘッジ 損益	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	41,762	△ 32,568	9,194	131,191
当期変動額				
当期純利益				2,418
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	△ 32,927	33,183	255	255
当期変動額合計	△ 32,927	33,183	255	2,674
当期末残高	8,835	614	9,450	133,865

(4) キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	前事業年度 (平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 3 月 31 日)	当事業年度 (平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 29 年 3 月 31 日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純利益	9,249	3,563
減価償却費	1,805	1,143
減損損失	339	-
貸倒引当金の増減(△)	4	△ 0
賞与引当金の増減(△)	△ 86	6
役員賞与引当金の増減(△)	22	9
役員退職慰労引当金の増減(△)	14	△ 1
資金運用収益	△ 44,203	△ 41,837
資金調達費用	27,202	30,491
有価証券関係損益(△)	△ 7,328	△ 12,675
為替差損益(△)	42,017	△ 12,682
売買目的有価証券の純増(△)減	-	△ 11,880
貸出金の純増(△)減	△ 168,699	△ 241,834
預金の純増減(△)	134,309	22,178
譲渡性預金の純増減(△)	△ 60,000	50,000
有利息預け金の純増(△)減	△ 26	26
借入金(劣後特約付借入金を除く)の純増減(△)	193,112	65,487
外国為替(資産)の純増(△)減	△ 2,110	△ 162
債券貸借取引受入担保金の純増減(△)	△ 455,684	65,339
売現先勘定の純増減(△)	-	109,130
保証金・預託金による純増(△)減	△ 20,240	37,906
金融派生商品による収入(△は支出)	△ 7,299	859
資金運用による収入	39,270	46,601
資金調達による支出	△ 19,532	△ 35,687
その他	438	△ 4,659
小計	△ 337,427	71,323
法人税等の還付額	10,808	0
法人税等の支払額	△ 1	△ 15,522
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 326,621	55,800
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△ 852,828	△ 803,635
有価証券の売却による収入	1,119,490	830,157
有価証券の償還による収入	175,316	355,663
有形固定資産の取得による支出	0	△ 7
無形固定資産の取得による支出	△ 2,339	△ 2,058
投資活動によるキャッシュ・フロー	439,637	380,118
財務活動によるキャッシュ・フロー		
財務活動によるキャッシュ・フロー	-	-
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	113,016	435,919
現金及び現金同等物の期首残高	1,774,140	1,887,157
現金及び現金同等物の期末残高	1,887,157	2,323,076

記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

有価証券の評価は、売買目的有価証券及びその他有価証券については決算日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は主として移動平均法により算定)、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法(定額法)により行っております。

なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

2. デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。

3. 固定資産の減価償却の方法

(1)有形固定資産

有形固定資産は、定額法を採用しております。

また、主な耐用年数は次のとおりであります。

器具備品 4年～18年

(2)無形固定資産

無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、当社における利用可能期間(5年)に基づいて償却しております。

4. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建資産・負債は、決算日の為替相場による円換算額を付しております。

5. 引当金の計上基準

(1)貸倒引当金

「銀行等金融機関の資産の自己査定並びに貸倒償却及び貸倒引当金の監査に関する実務指針」(日本公認会計士協会銀行等監査特別委員会報告第4号 平成24年7月4日)に規定する正常先債権及び要注意先債権に相当する債権については、一定の種類毎に分類し、予想損失率等に基づき計上しております。破綻懸念先債権に相当する債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち必要と認める額を計上しております。破綻先債権及び実質破綻先債権に相当する債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除した残額を計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署及び審査所管部署が資産査定を実施しております。

(2)賞与引当金

賞与引当金は、出向従業員に対する賞与の支払いに備えるため、所定の計算基準による支払見積額の当事業年度負担分を計上しております。

(3)役員賞与引当金

役員賞与引当金は、役員に対する賞与の支払いに備えるため、所定の計算基準による支払見積額の当事業年度負担分を計上しております。

(4)役員退職慰労引当金

役員退職慰労引当金は、役員に対する退職慰労金の支払いに備えるため、当社の取締役退職慰労金規程に基づく当事業年度末要支給額を計上しております。

6. ヘッジ会計の方法

(1) 金利リスク・ヘッジ

金融資産から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法は、「金融商品会計に関する実務指針」(日本公認会計士協会会計制度委員会報告第14号 平成27年4月14日)及び「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 平成14年2月13日。以下、「業種別監査委員会報告第24号」という。)に規定する繰延ヘッジによっております。その他有価証券に区分している固定金利の債券の相場変動を相殺するヘッジにおいては個別にヘッジ対象を識別し、金利スワップ取引をヘッジ手段として指定しております。ヘッジ有効性評価の方法については、相場変動を相殺するヘッジのうちヘッジ対象とヘッジ手段に関する重要な条件がほぼ同一となるようなヘッジ指定を行っているものは、高い有効性があるとみなしており、これをもって有効性の判定に代えております。それ以外のものについてはヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計を比較し両者の変動額を基礎にして判定しております。固定金利の貸出金の相場変動を相殺するヘッジにおいては業種別監査委員会報告第24号に基づき一定の残存期間毎にグルーピングのうえ特定し有効性を評価しております。

(2) 為替変動リスク・ヘッジ

外貨建金融資産・負債から生じる為替変動リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号 平成14年7月29日。以下、「業種別監査委員会報告第25号」という。)に規定する繰延ヘッジによっております。ヘッジ有効性評価の方法については、外貨建金銭債権債務等の為替変動リスクを減殺する目的で行う通貨スワップ取引及び為替スワップ取引をヘッジ手段とし、ヘッジ対象である外貨建金銭債権債務等に見合うヘッジ手段の外貨ポジション相当額が存在することを確認することによりヘッジの有効性を評価しております。

7. キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、貸借対照表上の「現金預け金」のうち現金並びに日本銀行への預け金及びその他の無利息の預け金であります。

8. 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(追加情報)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当事業年度から適用しております。

注記事項

(貸借対照表関係)

1. 貸出金のうち、破綻先債権額は2百万円であります。

なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下、「未収利息不計上貸出金」という。)のうち、法人税法施行令(昭和40年政令第97号)第96条第1項第3号イからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。

また、債権額は貸倒引当金控除前の金額であります。

2. 担保に供している資産は次のとおりであります。

担保に供している資産

有価証券 1,319,098 百万円

担保資産に対応する債務

売現先勘定 109,130 百万円

債券貸借取引受入担保金 820,585 百万円

借入金 365,700 百万円

上記のほか、為替決済の取引の担保として有価証券 10,534 百万円を差し入れております。

また、その他の資産には、保証金 152 百万円が含まれております。

3. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は、11,088 百万円であります。このうち契約残存期間が1年以内のものが 11,088 百万円あります。

なお、これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当社が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約後も定期的に予め定めている社内手続きに基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

4. 有形固定資産の減価償却累計額 3 百万円

5. 1株当たりの純資産額 13,386,539 円 69 銭

6. 関係会社に対する金銭債権総額 1,010 百万円

7. 関係会社に対する金銭債務総額 50,074 百万円

(損益計算書関係)

1. 1株当たりの当期純利益金額 241,821 円 67 銭

2. 関係会社との取引による費用

資金調達取引に係る費用総額 4 百万円

役務取引等に係る費用総額 1 百万円

(株主資本等変動計算書関係)

発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

(単位:株)

	当事業年度 期首株式数	当事業年度 増加株式数	当事業年度 減少株式数	当事業年度末 株式数	摘要
発行済株式	10,000	-	-	10,000	
普通株式	10,000	-	-	10,000	

(注)自己株式は存在しません。

(キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と期末貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

(単位:百万円)

現金預け金勘定	2,323,372
日銀預け金以外の預け金(但し有利息のもの)	△ 296
現金及び現金同等物	<u>2,323,076</u>

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1)金融商品に対する取組方針

当社は、預金業務、貸出業務、為替業務、有価証券投資業務などを行っております。これらの業務に伴い、貸出金、債券等の金融資産を保有するほか、預金、債券貸借取引等による資金調達を行っております。このように、当社は、主として金利・為替等の変動を伴う金融資産及び金融負債を有していることから、資産負債の適切なバランスを保つことを目的に、資産負債の総合管理(ALM)を行っております。また、その一環としてデリバティブ取引も行っております。

(2)金融商品の内容及びそのリスク

当社が保有する金融資産は、主として国債、財投機関債、外国証券等の有価証券であります。これらは、発行体の信用リスク、金利の変動リスク、為替の変動リスク及びその他の市場価格の変動リスクに晒されております。また、貸出金は、外貨建てローン債権、住宅ローン債権、オートローン債権等を裏付資産とした流動化案件に対する貸出等であり、債務不履行に伴う信用リスク、金利リスク及び為替リスクに晒されております。一方、金融負債は、主として顧客からの預金であり、金利リスク等の市場リスク及び資金流動性リスクに晒されております。

デリバティブ取引は、債券に係る金利の変動リスクに対するヘッジ手段として金利スワップ取引を行い、必要に応じてヘッジ会計を適用しております。また、金利スワップ取引の他に、為替予約取引等を行っております。

(3)金融商品に係るリスク管理体制

①信用リスクの管理

当社は、信用リスクに関する管理諸規程に従い、有価証券の発行体の信用リスク及びデリバティブ取引におけるカウンターパーティーリスク等の信用リスク管理については、信用情報や時価の把握を定期的に行い管理しております。貸出金については、個別案件ごとの与信審査、信用情報、外部格付、保証や担保の設定、問題債権への対応など与信管理に関する体制を整備しリスク管理を実施しております。

全体的な信用リスク管理は、リスクマネジメント部が行い、モニタリング結果を定期的にはリスクマネジメント委員会に報告しております。

②市場リスクの管理

(i)金利リスクの管理

当社は、市場リスクに関する管理諸規程に従い、金利リスク管理の対象となる金融資産及び金融負債について、金利の変動リスク(日本銀行のマイナス金利政策によるものを含む。)に対するリスクリミットを設定し、リスクマネジメント部において日次で把握・確認を行っております。また、モニタリング結果を定期的にはリスクマネジメント委員会に報告しております。

(ii)為替リスクの管理

当社は、市場リスクに関する管理諸規程に従い、為替リスク管理の対象となる金融資産及び金融負債について、為替の変動リスクに対するリスクリミットを設定し、リスクマネジメント部において日次で把握・確認を行っております。また、モニタリング結果を定期的にはリスクマネジメント委員会に報告しております。

(iii)市場価格変動リスクの管理

有価証券を含む投資商品の保有については、当社の市場リスクに関する管理諸規程に従い行っております。リスクマネジメント部は、価格変動リスクの状況や、リスクリミット・損失限度に照らした適正性をそれぞれ

日次で把握・確認を行っております。またモニタリング結果を定期的にリスクマネジメント委員会に報告しております。

(iv)デリバティブ取引の管理

デリバティブ取引については、市場リスクに関する管理諸規程に基づき実施しております。また、取引の執行、ヘッジ有効性の評価、事務管理に関する部門をそれぞれ分離し内部牽制を確立しております。リスクマネジメント部は、取引状況のモニタリングを行い、その結果を定期的にリスクマネジメント委員会に報告しております。

(v)市場リスクに係る定量的情報

当社では、金融資産及び金融負債について、市場リスク(金利、為替、株式等の様々な市場のリスク・ファクターの変動により、資産・負債(オフ・バランスを含む。)の価値が変動し損失を被るリスク、資産・負債から生み出される収益が変動し損失を被るリスク)の管理にあたり、バリュー・アット・リスク(一定の信頼水準の下での最大予想損失額。以下「VaR」という。)を用いております。VaR 計測の方法は、ヒストリカル・シミュレーション法(信頼区間 99%、観測期間 750 営業日)を採用しております。売買目的の金融商品は保有期間 1 日で算出した値を保有期間 10 日に、売買目的以外の金融商品は保有期間 20 日で算出した値を保有期間 125 日に換算した値を VaR として利用しております。平成 29 年 3 月 31 日現在における当該数値は、売買目的の金融商品は 218 百万円、売買目的以外の金融商品は 8,829 百万円であります。

なお、当社では、リスク計測モデルによって算出された VaR と仮想損益額との比較を行うバックテストを定期的に行い、当該モデルの有効性を検証しております。当事業年度に実施したバックテストの結果、当社が使用するリスク計測モデルは市場リスクを捕捉しているものと認識しております。ただし、VaR は過去の相場変動をベースに統計的に算出しており、通常では考えられないほど市場環境が激変する状況下においてはリスクを十分に捕捉できない場合があります。このような VaR による管理の限界を補完するため、各種シナリオを用いた損失の計測(ストレステスト)を実施しております。

③資金流動性リスクの管理

当社は、資金流動性リスク管理として、流動性カバレッジ比率を算定し、リスクマネジメント部が日々モニタリングを行い、その結果を定期的にリスクマネジメント委員会に報告しております。

(4)金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等による場合、当該価額が異なることもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成 29 年 3 月 31 日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。

(単位:百万円)

	貸借対照表 計上額	時価	差額
(1)現金預け金	2,323,372	2,323,372	-
(2)有価証券	1,729,661	1,729,624	△ 37
売買目的有価証券	11,927	11,927	-
満期保有目的の債券	56,220	56,183	△ 37
その他有価証券	1,661,513	1,661,513	-
(3)貸出金	558,947		
貸倒引当金(*1)	△3		
	558,944	559,742	798
資産計	4,611,978	4,612,740	761
(1)預金	3,143,685	3,143,681	△ 3
(2)譲渡性預金	50,000	50,000	-
(3)売現先勘定	109,130	109,130	-
(4)債券貸借取引受入担保金	820,585	820,585	-
(5)借入金	365,700	365,700	-
負債計	4,489,101	4,489,097	△ 3
デリバティブ取引(*2)			
ヘッジ会計が適用されていないもの	3,280	3,280	-
ヘッジ会計が適用されているもの	19,791	19,791	-
デリバティブ取引計	23,072	23,072	-

(*1)貸出金に対応する一般貸倒引当金を控除しております。

(*2)その他資産・負債に計上しているデリバティブ取引を一括して表示しております。デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、()で表示しております。

(注)金融商品の時価の算定方法

資産

(1)現金預け金

満期のない預け金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(2)有価証券

株式は取引所の価格、債券は取引金融機関等から提示された価格によっております。投資信託は、公表されている基準価格または取引金融機関等から提示された基準価格によっております。

(3)貸出金

貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異なっていない限り、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。固定金利によるものは、貸出金の種類及び期間等に基づき、元利金の合計額を同様の新規貸付を行った場合に想定される利率で割り引いて時価を算定しております。

また、破綻先に対する債権等については、見積将来キャッシュ・フローの現在価値又は担保及び保証による回

収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は決算日における貸借対照表上の債権等計上額から貸倒引当金計上額を控除した金額に近似しており、当該価額を時価としております。

負債

(1)預金

預金のうち、要求払預金については、決算日に要求された場合の支払額(帳簿価額)を時価とみなしております。また、定期預金の時価は、将来のキャッシュ・フローを見積もり、一定の割引率で割り引いて時価を算定しております。割引率は、当社の信用スプレッドを加味したイールドカーブから算定しております。

(2)譲渡性預金

譲渡性預金は、約定期間が短期間(1年以内)であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(3)売現先勘定

売現先勘定は、約定期間が短期間(1年以内)であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(4)債券貸借取引受入担保金

債券貸借取引受入担保金は、約定期間が短期間(1年以内)であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(5)借入金

借入金は、将来のキャッシュ・フローを見積もり、同様の借入において想定される利率で割り引いて時価を算定しております。

デリバティブ取引

デリバティブ取引は、金利関連取引、通貨関連取引及び株式関連取引であり、割引現在価値等により算定した価額によっております。

(有価証券関係)

1. 売買目的有価証券(平成 29 年 3 月 31 日現在)

	当事業年度の損益に含まれた 評価差額(百万円)
売買目的有価証券	△ 120

2. 満期保有目的の債券(平成 29 年 3 月 31 日現在)

	種類	貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
時価が貸借対照表計 上額を超えるもの	社債	20,862	20,912	49
	小計	20,862	20,912	49
時価が貸借対照表計 上額を超えないもの	社債	35,357	35,270	△ 86
	小計	35,357	35,270	△ 86
合計		56,220	56,183	△ 37

3. その他有価証券(平成 29 年 3 月 31 日現在)

	種類	貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	債券	751,204	723,403	27,800
	国債	651,679	626,994	24,684
	地方債	-	-	-
	社債	99,525	96,408	3,116
	その他	288,053	284,957	3,096
	小計	1,039,257	1,008,360	30,896
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	債券	58,232	58,300	△ 67
	国債	-	-	-
	地方債	13,086	13,100	△ 13
	社債	45,146	45,199	△ 53
	その他	564,023	582,117	△ 18,094
	小計	622,255	640,417	△ 18,162
合計		1,661,513	1,648,778	12,734

4. 当事業年度中に売却したその他有価証券(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

	売却額(百万円)	売却益の合計額(百万円)	売却損の合計額(百万円)
債券	384,314	18,913	104
国債	344,005	17,707	104
社債	40,309	1,206	-
その他	419,612	1,766	11,930
合計	803,927	20,680	12,035

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳は、それぞれ次のとおりであります。

繰延税金資産

控除対象外消費税	88	百万円
未払事業税	67	
賞与引当金	45	
その他	55	

繰延税金資産小計 256

評価性引当額 Δ 35

繰延税金資産合計 221

繰延税金負債

未収還付事業税	395	
その他有価証券評価差額金	3,899	
繰延ヘッジ損益	265	
その他	12	

繰延税金負債合計 4,573

繰延税金負債の純額 4,352 百万円

【その他の財務情報】

1. 金融再生法ベースのカテゴリによる開示

(単位:百万円)

	平成 28 年 3 月末	平成 29 年 3 月末
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	-	2
危険債権	-	-
要管理債権	-	-

(注)上記は、「金融機能の再生のための緊急措置に関する法律」に基づくものであります。

2. 利鞘の状況

(単位:%)

	平成 28 年 3 月期	平成 29 年 3 月期
資金運用利回り(A)	1.03	0.96
資金調達利回り(B)	0.65	0.71
資金粗利鞘(A)-(B)	0.38	0.24

<解約損益控除後>

(単位:%)

	平成 28 年 3 月期	平成 29 年 3 月期
資金運用利回り(A)	0.78	0.87
資金調達利回り(B)	0.40	0.47
資金粗利鞘(A)-(B)	0.38	0.39

(注)解約損益は決算期により変動があるため、資金運用収支に含まれる解約損益を控除して算出しております。

3. デリバティブ取引

(1) ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

金利関連取引

(単位:百万円)

区分	種類	平成 28 年 3 月末			平成 29 年 3 月末		
		契約額等	時価	評価損益	契約額等	時価	評価損益
店頭	金利スワップ						
	受取固定・支払変動	-	-	-	20,000	2	2
	受取変動・支払固定	2,171	△116	△116	32,994	△335	△335
	受取変動・支払変動	-	-	-	102,000	12	12
合計			△116	△116		△320	△320

通貨関連取引

(単位:百万円)

区分	種類	平成 28 年 3 月末			平成 29 年 3 月末		
		契約額等	時価	評価損益	契約額等	時価	評価損益
店頭	通貨スワップ	68,952	1,521	1,521	112,146	1,829	1,829
	為替予約	952,796	1,124	1,124	744,097	1,630	1,630
合計			2,645	2,645		3,460	3,460

株式関連取引

(単位:百万円)

区分	種類	平成 28 年 3 月末			平成 29 年 3 月末		
		契約額等	時価	評価損益	契約額等	時価	評価損益
金融商品取引所	株式指数先物	-	-	-	10,865	140	140
合計			-	-		140	140

(2) ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

金利関連取引

(単位:百万円)

ヘッジ会計の方法	種類	平成 28 年 3 月末			平成 29 年 3 月末		
		主なヘッジ対象	契約額等	時価	主なヘッジ対象	契約額等	時価
原則的処理方法	金利スワップ 受取変動・支払固定	その他 有価証券	1,014,624	△25,341	その他 有価証券	1,267,412	18,877
合計				△25,341			18,877

通貨関連取引

(単位:百万円)

ヘッジ会計の方法	種類	平成 28 年 3 月末			平成 29 年 3 月末		
		主なヘッジ対象	契約額等	時価	主なヘッジ対象	契約額等	時価
原則的 処理方法	通貨スワップ	-	-	-	外貨建有価 証券及び外 貨建貸出金	197,692	914
合計				-			914

4. 預金の状況

(単位:百万円)

	平成 28 年 3 月末	平成 29 年 3 月末
預金	3,121,506	3,143,685
当座預金	8,196	8,666
普通預金	1,271,977	1,527,655
定期預金	1,597,105	1,352,692
その他の預金	244,227	254,670
譲渡性預金	-	50,000
合計	3,121,506	3,193,685

5. 営業経費の状況

(単位:百万円)

	平成 28 年 3 月期	平成 29 年 3 月期
人件費	1,407	1,452
物件費	5,086	4,906
うち減価償却費	1,805	1,143
税金	1,310	993
合計	7,804	7,352

6. 口座数の状況

(単位:千口座)

	平成 28 年 3 月末	平成 29 年 3 月末
口座数	1,133	1,213

7. 役員数、従業員数の状況

(単位:人)

	平成 28 年 3 月末	平成 29 年 3 月末
役員	12	13
取締役	8	9
監査役	4	4
従業員	87	88
合計	99	101

(注) 非常勤の取締役 2 名および監査役 3 名を含めて記載しております。